

## 市長記者会見

期 日 平成29年12月21日（木）

時 間 午前10時～

場 所 執行部控室

### 発表内容

◎ 今年1年を振り返って

1 ロシアからの平昌冬季オリンピック競技大会フィギュアスケート選手の  
合宿受け入れについて (スポーツ振興課)

※ 新バスシステム開業2年目の利用者数について (新交通推進課)

※ とともにプロジェクト ロゴマークの活用について (障がい福祉課)

平成29年12月21日  
新潟市スポーツ振興課

ロシアからの平昌<sup>ピョンチャン</sup>冬季オリンピック競技大会  
フィギュアスケート選手の合宿受け入れについて

ロシアオリンピック委員会（以下「ROC」という。）が、国際オリンピック委員会（以下「IOC」という。）から「ロシア代表選手団」の派遣を禁じられたことにより、本市は、ロシアフィギュアスケート連盟（以下「連盟」という。）と協議をしていましたが、「個人資格」での選手の合宿を受け入れることを決定しました。

○経緯

本年10月	・「ロシア代表選手団」による合宿が本市において実施されることが決まる。
12月5日	・IOCがROCに対し「ロシア代表選手団」の派遣を禁じる処分を科した。なお、条件を満たした選手は「個人資格」として参加することは可能とした。
12月12日	・ROCと連盟が「個人資格」での参加を支持することとした。
12月15日	・本市と連盟での協議を経て、合宿を行うことを決定した。

○協議結果

本市は、連盟において連絡調整が可能な「個人資格」で参加する選手の合宿を、「ロシア代表選手団」の合宿として取り決めた内容に準じて受け入れることとする。

お問い合わせ先

新潟市スポーツ振興課（中村）

電話025-226-2595（直通）

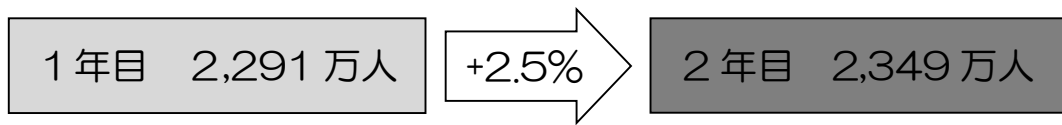
## 新バスシステム開業2年目(H28.9-H29.8)の利用者数について

これまでバス利用者数については、新バスシステム開業1年目は、開業前と同じ条件で比較するため、運行事業者が公表する数値を本市で補正していましたが、開業2年目はこの補正を行うことなく1年目の公表数値と直接比較できるようになりました。

### ●全体利用者数

開業以降、バス利用者の皆さまからのご意見を踏まえたダイヤ改正やダイレクト便の増便などの改善や、シニア半わりの本格実施などにより、これまで減少を続けてきたバス利用者数は1年目のプラス0.8%、2年目は58万人増のプラス2.5%と増加傾向に転じています。

#### 【開業1年目と2年目との比較】

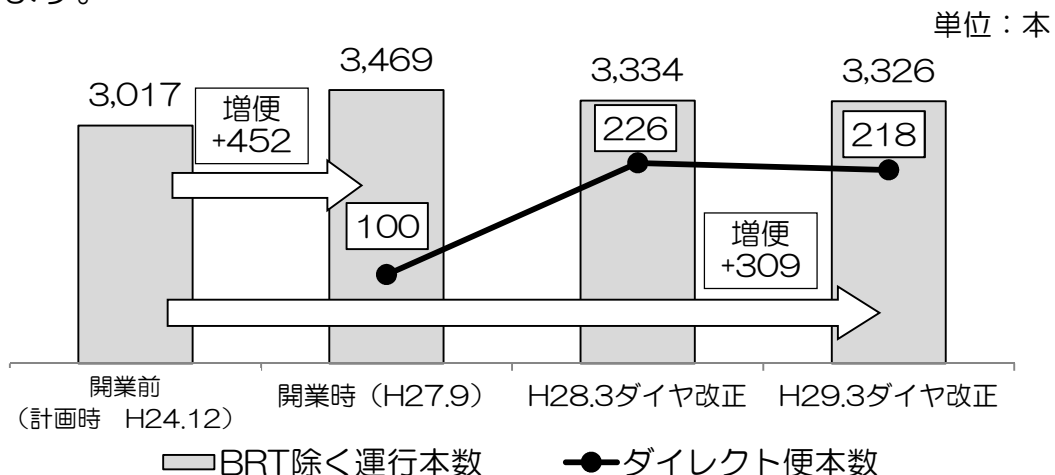


#### 【開業前と1年目の比較】開業前データが無い8号線（大野白根線、味方線）を除いて比較



### ●増便数とダイレクト便数（平日）

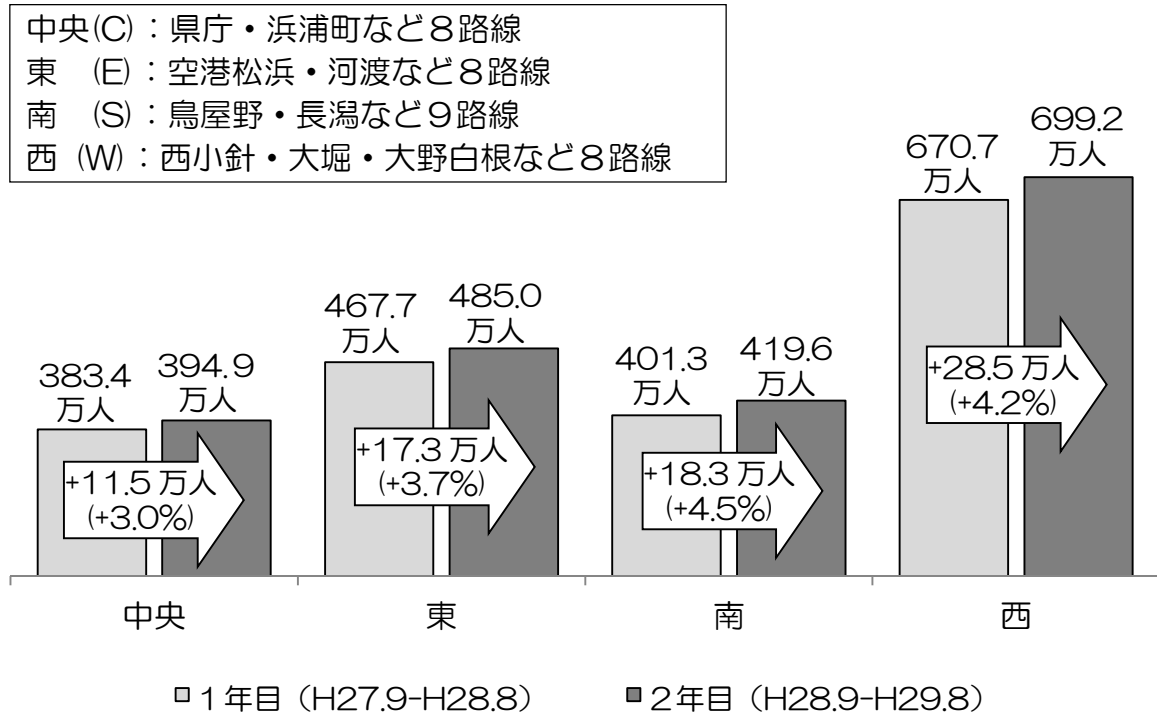
開業時に郊外線を中心とした452本の増便数は、ダイレクト便を大幅に増やしたことなどにより減少したものの、現在も309本の増便数を維持しています。



## ●郊外線の利用者数

郊外線の増便や各種改善などを進めてきたことで、郊外線の利用者数は増加しており、これまでの取組みの効果が始まっています。

### <方面別の利用者数>

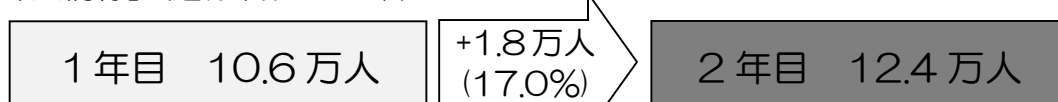


### <増便を行った主な郊外線の利用者数（増便数上位5路線）>

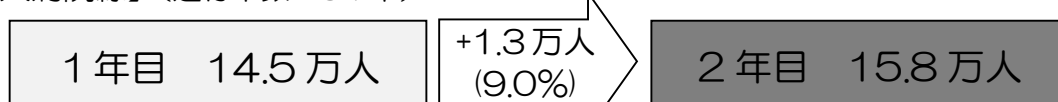
	[方面]路線名	運行本数 (増便数)	利用者数		
			1年目	2年目	差
1	[西]寺尾・大堀・小新線	246本 (+46本)	94.2万人	100.6万人	+6.4万人 (+6.8%)
2	[東]臨港線	66本 (+29本)	18.7万人	19.5万人	+0.8万人 (+4.3%)
3	[西]大野白根線	114本 (+24本)	69.2万人	72.4万人	+3.2万人 (4.6%)
4	[中央]西堀・八千代線	152本 (+19本)	67.1万人	68.3万人	+1.2万人 (1.8%)
5	[南]長湍線	154本 (+15本)	107.0万人	116.2万人	+9.2万人 (8.6%)

### <主な新設路線の利用者数>

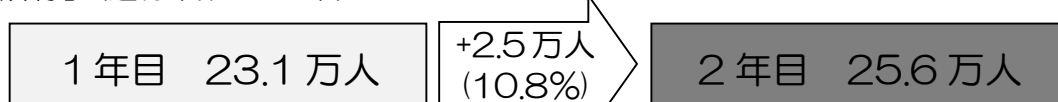
【柳都大橋線】（運行本数：40本）



【新大病院線】（運行本数：54本）



【上所線】（運行本数：73本）



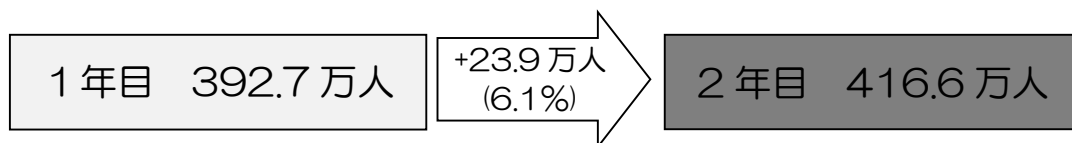
### ●BRT 区間のバス停利用者数

萬代橋ラインとまちなかで並行するダイレクト便の増便により、バス利用者が萬代橋ラインとダイレクト便に分散したことで、萬代橋ラインのバス停利用者数は減少していますが、BRT 区間では増加しています。



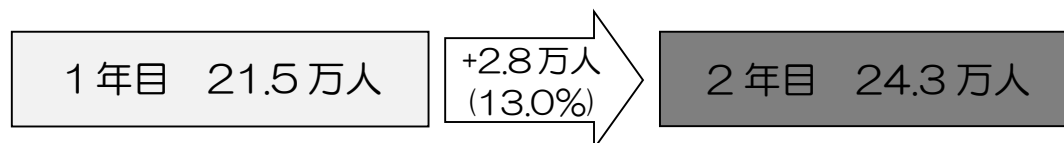
### ※古町地区（本町・古町）のバス停利用者数

日中や土休日の買い物・通院等に対して、ダイレクト便の増便など改善を進めたことで、本町・古町のバス停利用者数は増加しています。



### ●白山駅の機能向上（白山駅前バス停の利用者数）

白山駅前広場への路線バスの乗入れで、白山駅から古町地区へのアクセス性が向上し、鉄道・バスとも利用者は増加しており、ターミナルとしての効果が出始めています。

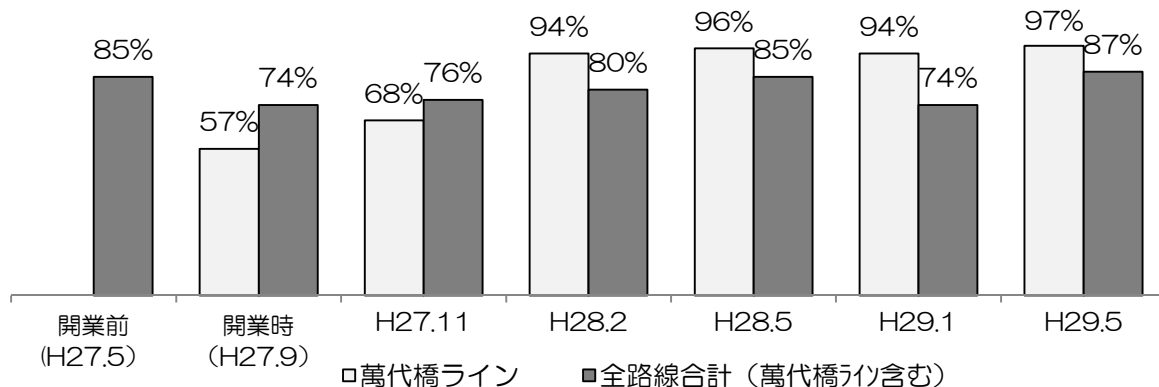


### <参考>JR 白山駅の鉄道利用者数

- ・新バス開業前（H26年度）：平均 5,241 人/日
- ・新バス開業後（H28年度）：平均 5,416 人/日（175 人/日の増）

## ●萬代橋ラインの定時性

乗り換えの軸となる萬代橋ラインは、ダイヤ改正などの改善を進めたことで高い定時性を維持し、幹線路線としての信頼性を確保しています。



### ■ 萬代橋ラインと全バス路線の目標達成率※

※目標達成率：新潟交通(株)が定時性の目標としている  
到着ダイヤからの遅れが3分未満のバス停の割合

<参考>第44回 市政世論調査結果 (H29年)

◇市として今後もっと力を入れてほしいもの：1位「公共交通の充実」

◇市の取組みに対する満足度：「持続可能な公共交通体系の構築」：【不満】40.1%

本市では、平成27年9月に新バスシステムを導入し、全国的に運転手不足によるバス路線の減便や廃止といったバスサービスの低下やバス利用者数の減少が進むなか、郊外線の増便をはじめ、バス利用者の皆さまからのご意見を踏まえたダイヤ改正やダイレクト便の増便、シニア半わりの本格実施などバスサービスの向上に取り組んできました。

開業から2年が経過しましたが、バス利用者数は1年目のプラス0.8%に続き、2年目は58万人増のプラス2.5%と、バス利用者数の減少傾向に歯止めがかかってきているなど、様々な成果が出始めています。

また、快速運行している連節バスについても、「シートをセパレートにしたことで座りやすくなった」、「子供や孫と出かけるきっかけとなった」など、従来のバスとは違うイメージについてのご意見もいただいています。

一方で、今年度の市政世論調査では、市として今後もっと力を入れてほしい施策・事業で「公共交通の充実」が1位となっています。また、「持続可能な公共交通体系の構築」への取り組みについても、ご不満のお声をいただいています。

引き続きバスサービス向上にむけ、バス利用者の皆さまからのご意見をお聞きしながら、運行事業者とともに改善に努めていきます。

## 「ともにプロジェクト」 ロゴマークの決定について

### ■ ともにプロジェクト

平成28年4月1日に施行した「新潟市障がいのある人もない人も共に生きるまちづくり条例」をより多くの方から知ってもらい、共生のまちづくりをさらに推進するため、障がいや障がいのある人への理解促進を図る「ともにプロジェクト」を立ち上げました。

### ■ ロゴマークの決定

「ともにプロジェクト」のシンボルとなるロゴマークを決定しました。

このロゴマークをさまざまなイベントポスターやチラシ、パンフレットなどに使っていただき、共生社会の実現に向けてともに取り組みを進めていくため、ロゴマークの周知・活用についてご協力をお願いいたします。

(ロゴマーク・使用基準・使用マニュアルを市ホームページで公開中です)

### ■ ロゴマーク デザイン



デザイン：吉村文子様（茨城県在住）

### ■ 取り組み例

－学校との連携－



こどもの頃から障がいのある人との交流を図る

－スポーツとの連携－



まちなかで気軽に障がい者スポーツに触れる

－企業との連携－



企業と連携しバス停に障がい者アートを飾る